



門へ13
3917
卷3

泉岸 思之中村貞纂述
博愛奥田頼閣正
類語 小學作文教授書 全五冊

此書ハ先生曾テ學校巡回ノ際各校生徒ノ進歩推リ作文ノ諸科ニ
後ルヲ憂ヘ其教授ノ順序ト方法トヲ講究シ其發明スルヲ實地ニ
試ミ其效アル俗文要語活用問答今正誤文俗文復誤法各若ク
初卷ノ首ニ掲ゲ次ニ作文教授方ヲ説キ日用短簡文一百餘章ヲ編ス
次卷ハ首ニ俗語彙ニ編ス○第三卷首ニ作文要字ヲ編ス○和辭ヲ掲ゲ
用ノ願ハ文諸証文等ヲ編ス○第四卷首ニ俗語ヲ編ス○第五卷首ニ
次ニ方今流行ノ短文未嘗有極面白八讀百餘章ヲ編ス○第四第五
兩卷ハ首ニ漢文要字ヲ編ス○第六卷首ニ俗語ヲ編ス○第七卷首ニ
紀事論説贊銘題跋傳序祝文祭文等ノ作例數百ヲ編シ其文ノ種
類ニ從テ其趣意ト作方ヲ示シ○第八卷首ニ假名テ訓解ヲ施シ
但ニ毎卷ニ作例及ビ類語ニ假名テ訓解ヲ施シ教授且ツ獨學ニ
便スル書ナリ其親切ナル筆紙盡シ難シ四方君子一覽試以
テ其言ノ誣ヒサルヲ知リ玉ヘ 大塚文宝寺町四丁目 前川源七郎敬白

松濤情史秋七草卷之三

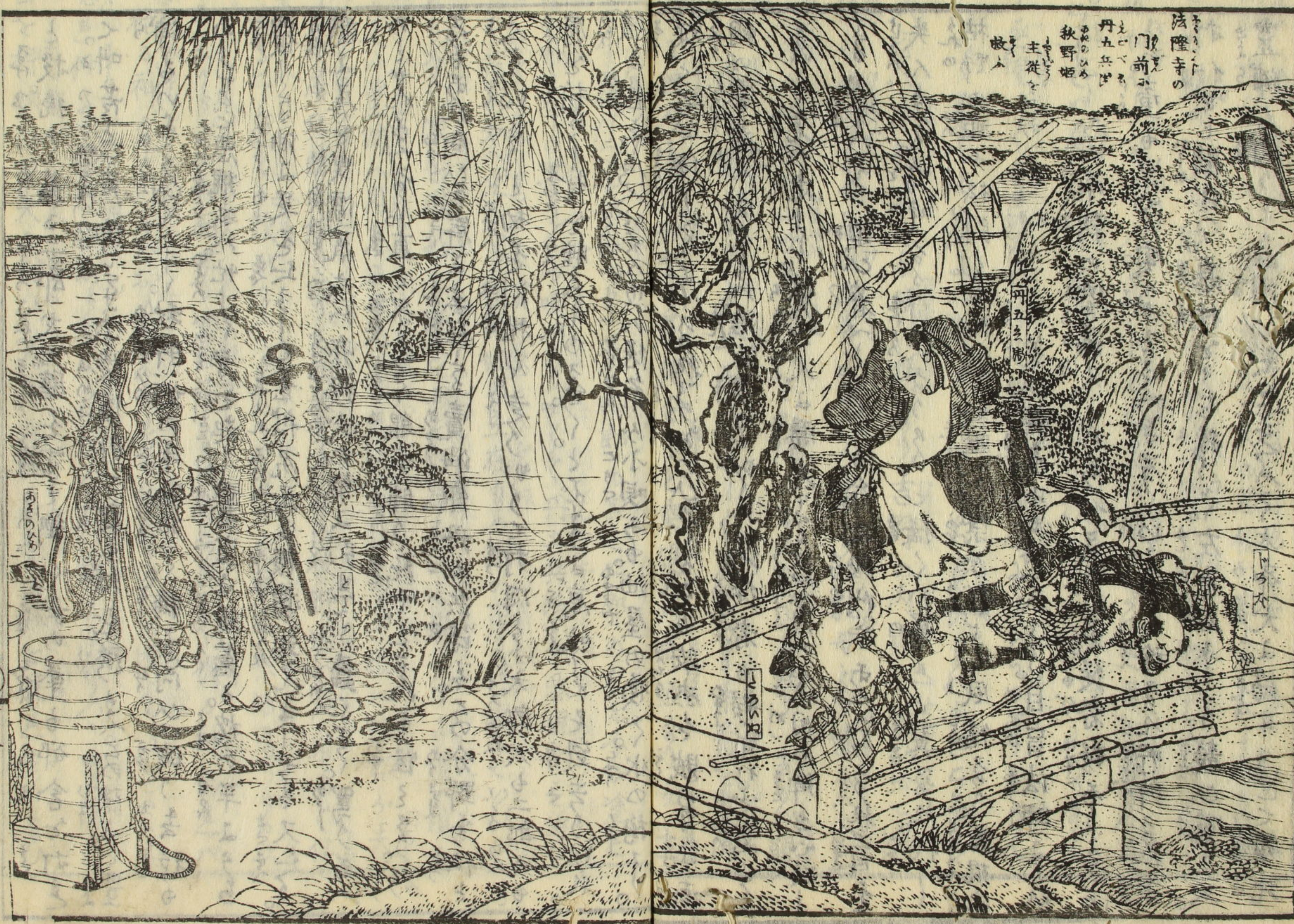
東都 曲亭馬琴編次

○第五 葛よ名つろ ちうれ草

秋ハ是モ花むらさきの松ヤ針。かた露さ玉とて。なれも是も
尾花ハ袖小。吉野の葛ちうと枯。衣年寒と神月よ名のも
り秋野姫と。乳母豊浦は枝掖と。六田の旅宿と出と。志
人め依隠坐。涙の雨と降と。胸の志とさくく。道丁
るけとありひ入。山迹路を彼此と。野とる死里を平群郡。法隆
寺は後遠く。西安の里とくた。若あふ。なつね旅とい
く。ちうとちう。哀傷と。身とる後も疲勞と。歩の運びと定
る。豊浦ハさうと。勸と進と。或と激と。或と慰めと。て

松濤情史卷之三

法隆寺の
門前
丹五兵衛
秋野姫
主従
故



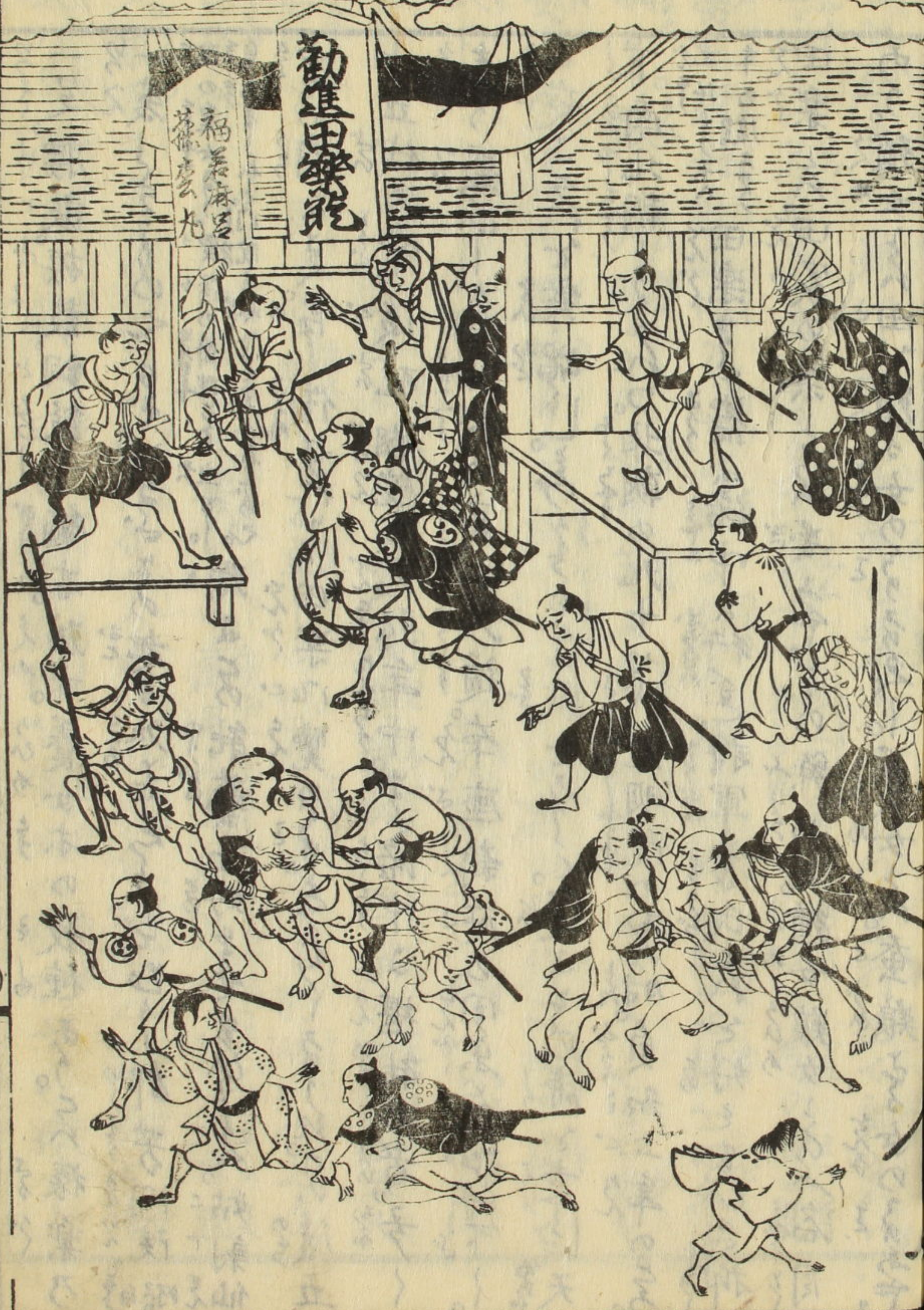
と投、続々蒐る。二郎犬が膳を丁と衝く。女の拳由卻舎を打と
て叫、若と一声仰、さまじ。倭儼卧て起、ぬる。誘、さる。隙、や。豊
浦、さ。い。う。ひ。く。秋野姫の手を掖、く。橋を向、ひ。渡、う。去。後、由
あ、う。せ。む。悪棍、ホ。忙、く。身、を。起、し。篝、直、又。追、蒐、る。櫓、の。手、又。う。ち
覆、く。油、又。足、を。上、う。と。是、彼、尻、居、は。輶、漕、起、ん。と。う。ち。又、上、り。
繻、は。尾、を。曳、濡、氣、或、は。亦、瘦、犬、の。轍、又。引、き、く。蠢、く。ど。罵、り、あ、ん
の、と。ん。と。さ。る。直、と。呆、れ、く。眼、を。睜、く。死、や。と。こ、れ、を。怪、く。う。お、う。
あ、も。あ、れ。向、ひ、の。岸、又。立、在、る。賣、油、郎。丹、五、兵、衛、と。あ、の。分、野、と。信、と
え、く。ゆ、う。と。初、を。引、提、く。走、り、かり、て。打、回、ぶ。太、郎、犬、も。二、郎、犬、も。
肩、を。折、り、背、を。腫、ら、し。ゆ、う。せ。く。と。ど、う。う。高、吠、く。と。そ、逃、去、り。け、れ。
後、は。是、と。言、は、く。雪、ん。世、の。総、角、が。小、唄、あ、も。油、屋、の。横、が。氷、の。櫓、い、り。
油、一、斗、覆、し、つ。その油、う、ち、せ、し。太、郎、の。犬、と。二、郎、の。犬、と。み、か、塗、ま
と。ん。ぬ。と。今、の。世、や、ぐ、も。唄、あ、り。く。丹、五、兵、衛、と。悪、棍、ホ、を。追、ひ
捨、く。舊、の。如、へ。立、く。秋、野、姫、の。立、在、る。樹、の。下、は。瑞、姫、く。い、ひ、し。
る。も、る。涙、を。潜、移、と。落、と。み。姫、居、さ、いと。誘、い、げ。渠、へ。誰、と
同、く。入、る。豊、浦、の。月、光、又。さ、ん。う。ん。く。さ、く。い、つ。ふ。彼、へ。乳、母、が。大
なる。難、居、兵、衛、は。ゆ、り。り。と。回、答、さ、う。せ。ば。秋、野、姫、へ。黄、泉、あ、く。い、
は。達、ら。ら。く。飲、び。あ、り。大、さ。さ。く。と。原、来、兵、衛、る。り。り。飲、
げ。は。ん。う。と。さ。る。對、面、せ。り。憑、む。蔭、る。れ。牙、あ、も。かく。掲、る。神、あ、ま。は。
又、祐、る。神、う。り。同、く。あ、り。毎、え。ど。そ、も。汝、を。い、つ。の。頃、う。け。こ、う。と。
噫、と。作、ら。る。縁、故、を。あ、う。せ。さ。う。と。い、つ。と。叮、嚀、は。同、く。あ、り。豊、浦、へ
目、を。押、拭、ひ、つ。夫、は。對、ひ。あ、ん。牙、が。龍、泉、寺、の。城、を。脱、走、ま、り。あ、ひ

油を賣りて活業と。丹五兵衛と名を更く。ややくその日
を送るも。形も商人の如く出家なり。一初を弓箭よかえり。
清くもよめる水油。圖を逢ひて思ふ。仏の慈悲を蒙る。乃
外に他より多くゆひを。今より今より。姫君の危難を救
ふ。別まて久しき妻ふ。環會。是彼より合ふ。昨夜の
夢。いそぐ。水と由る水を喪ふと。嚮は彼知る。格
の半へ二桶の油を覆ふ。その油より。瓶く悪棍木を追ひ
延け。点改く。王を召し。と。公主は逢ひ。王の改
えを加ふ。主の字と。方より。姫君の危。あり。あ。前
象。ひ。ひ。疑。ひ。三位中將の。正武。神。天。が。
枕。は。告。り。る。人。の。ひ。と。信。ず。ふ。病。う。け。
豊浦へ。秋野姫も。世は。憑。り。た。か。持。り。正武病死の
う。へ。さ。う。り。標。丸。の。性。方。と。ど。ろ。り。の。年。を。経。る。こ。と。
文野前の自害の。正勝正元没落の。物を。う。り。つ。う。り。流。れ
る。兵。衛。と。毎。は。嗟。嘆。し。又。う。り。と。や。う。う。り。と。流。れ
ふ。便。り。法。隆。寺。へ。捕。氏。累。代。所。縁。の。蘭。若。り。う。り。上。人。と。見
る。の。う。り。と。つ。て。猶。り。寺。内。へ。誘。引。進。り。知。客。の。老。僧
と。緯。の。趣。を。う。り。せ。り。住。持。の。上。人。と。遇。り。秋野姫は。對。面。
旅路の疲勞を。同。慰。め。り。実。又。正武の。物。故。姑。文野前。自。刃。の
う。り。悼。り。と。追。福。の。好。更。と。安。く。是。町。寧。は。続。経。と。い。ふ。
要。時。の。隱。家。と。も。う。り。假。の。宿。り。を。厭。ふ。と。あ。ね。ど。い。と。艶。妖
う。り。女。主。従。と。僧。坊。と。舍。衆。と。難。保。り。と。丹。五

兵衛が草舎へ。あまうりよあまうりん。うが山の菜園ハ。せふ
まうる知ろ。今宵ハ彼知ろ。睡りぬと。いづく切は歎
待も。行童より夕膳を主従か前より安排。秋野姫
へいと。憑く。あひぬ。丹五兵衛夫婦も。いづれめ。安堵。浅
う。さる上人の庇覆を飲び。非時。果て上人ハ。後堂
う。あひ。主従。蕨襖引。因。ゆく。あまの。さう。相
語。丹五兵衛ハ。正儀の消息を。赤坂の城へ赴き。なり。
緯の。越。物。採井の兵書紛失。往方。さ。を打
嘆。小。豊浦ハ。を。嘆息。故主の枉死。見果ぬ夢。散
て。迹。採井の兵書の。惜。悔。く。あま
採丸ハ。環。進。交野前の遺言。化。せ。ん。夫
婦。忠。大。の。世。便。置
べ。女子の宿。ね。却人。疑。六田の旅宿を
あ。累。の。臨。費。も。夥。し。を。さ。あ
の。あ。隠。家。を。後。理。と。信。ち。密。結。う。兵。衛。と。あ
沈。吟。く。声。を。低。く。足。利。の。追。捕。忽。と。あ。大。和
坐。ん。危。浪。速。繁。華。の。地。れ。も。彼。知。る。尾。捕
氏の舊恩。あ。の。あ。主。従。彼。地。を。階。故。す。
採丸の。ん。往。方。と。索。な。姫。君。も。豊。浦。の。あ。と。ぞ
諾。ひ。ぬ。主。従。老。僧。は。僕。を。見。る。菜。園。の。草。堂。に。赴。け
る。来。る。終。末。の。夜。ち。相。譚。あ。ふ。冬。の。夜。も。短。く。覺。え

河原正満
 四條
 祖

松山情史卷之三



松山情史卷之三

河原正満

一足腰鼓振鼓銅鉦子。編木。殖女。養女木の教種あり。る様樂乃
一變するものこと。いふその起る如きと。むう郁芳門院。
院の皇女あり。養女の齋院あり。坐す。皇太后も門院と稱へるものあり。珠よる能藝を好ませむいふ。姑射仙
宮の内より。催さん。田樂に覽のり。あむく。る。後五
十五代の帝。後醍醐院の元弘年中。中。洛中。堪結の者。多く
来り聚ひいふ。滋食の高時入道。本座新座の用と。下し。
日夜よるを舞踏し。る。も。戯をりて。遂にその康を。天
下南北朝と。ん。北朝の九十七代光明天院の。貞和五年の。
元弘五年。田樂も。盛に洛中。行。將軍。氏。を好む。抑
田樂と。田家の樂と。あや。その舞曲。殖女。殖女と。名目
あり。殖女と。田と。殖女。の。養女と。蚕。殖女。の。あや。

田と殖。蚕を殖。入る。田家常の業あり。それ。打扮。舞。れ。バ。
田。と。名。け。る。あ。る。の。よ。舞。る。亦一説。今。の。世。豆
腐を短冊形に切。竹の串に貫き。新味増と。塗。焼。田。と
稱。彼。舞。踏。と。長。竿。又。携。る。形容。と。い。ふ。と。の。名。を
負。い。ふ。愚。按。と。放。下。刀。玉。田。樂。の。所作。田。樂。廢。れて
放。下。僧。と。い。ふ。の。ゆ。え。その。ち。放。下。僧。も。又。廢。ま。る。今。ハ。上。竿。伎
の。の。刀。玉。今。と。品。玉。と。法。苑。珠。林。に。西。域。の。女。戲。五。人
三。刀。を。傳。弄。し。加。く。十。五。竿。と。い。ふ。刀。玉。と。駒。谷。山。人。の。
匡。房。卿。の。洛。陽。田。樂。記。と。按。と。高。足。一。足。腰。鼓。振。鼓。編。木。殖
女。殖。女。木。と。い。ふ。の。曲。目。あり。その。打。扮。或。九。尺。の。高。扇。を。持
或。ハ。草。蓆。と。戴。る。或。ハ。蒿。の。尻。切。を。穿。或。ハ。裸。形。や。腰。

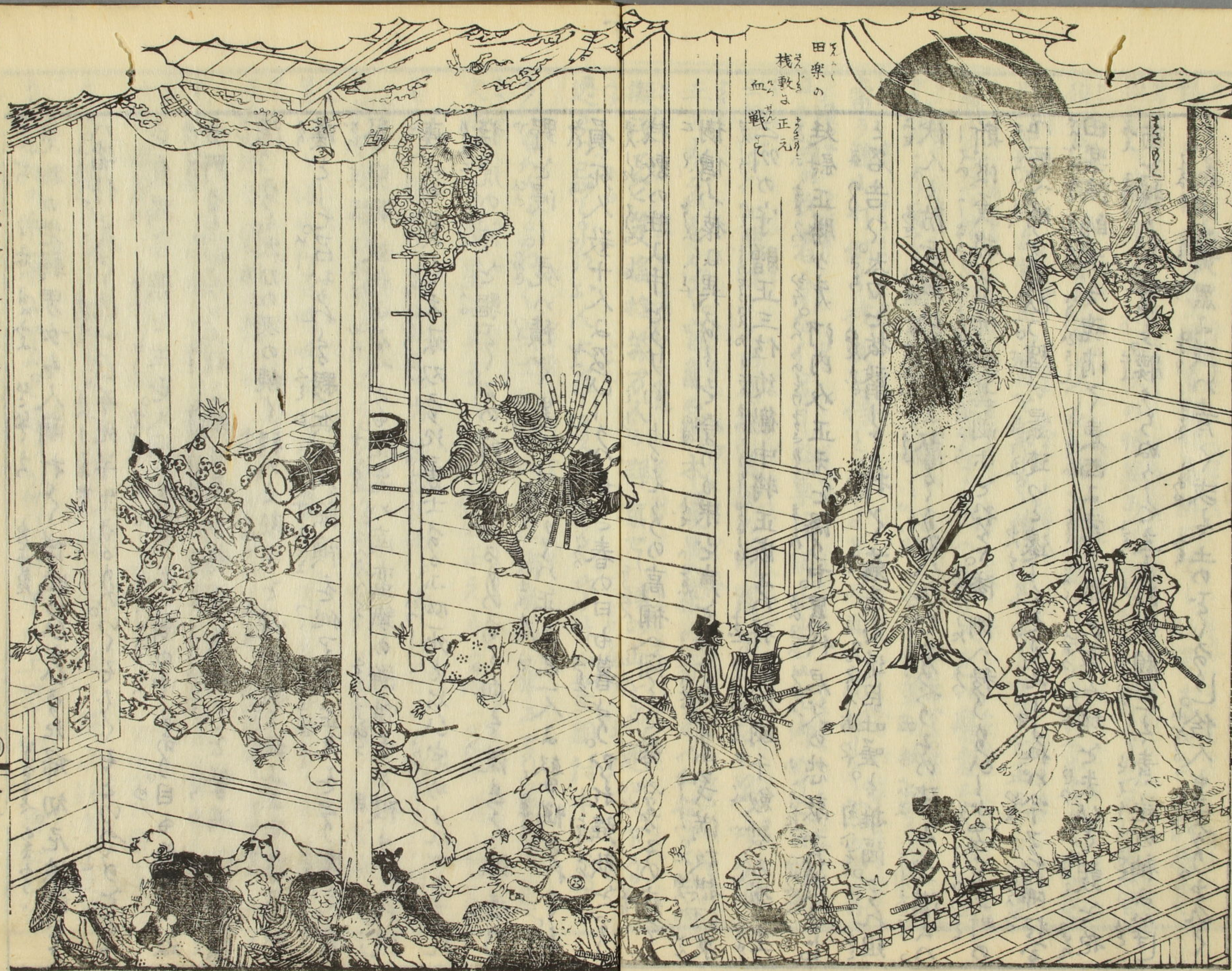
卷一

後新座の樂屋より。猿楽をゆく。その猿いと微妙弄踏をうけ。忽地はつりあう。不慮に命を墮せり。數百人は暨べり。ゆき先蹤不吉なり。前車の覆るをり。後車の戒とあり。此度も災害あり。量ぐ。努めひそまり。と。おそく。稟せ。は。満笑あり。冷笑ひ。は。達。只その一とあり。その二とあり。其の昔。是利の武威。いま。全く。振。り。夜。又。天狗。んと。動。を。入。洛。進。せ。東西の強敵を討成。四海を。め。異。は。萬民。今。天日。を。獨。樂。を。衆。と。示。む。孰。樂。と。衆。と。示。む。あ。れ。を。汝。達。棟梁の武臣。を。討。く。女。と。決。ひ。意。を。知。と。氣。を。め。く。い。ひ。懲。り。る。ば。衆。皆。再。く。諫。ふ。言。詰。り。背。り。汗。を。流。し。退。出。し。く。そ。く。か。り。と。と。件。の。老。臣。を。聚。ひ。て。商。議。し。貞。和。五。年。の。田。樂。を。天。狗。山。伏。の。為。に。野。の。人。を。殺。され。と。世。の。い。ふ。め。り。か。れ。は。此。度。の。田。樂。は。終。驗。の。山。伏。を。禁。じ。て。棧。敷。の中。へ。入。る。と。且。非。常。の。衛。護。肝。要。あり。と。供。奉。の。近。臣。より。その。ろ。の。成。り。番。卒。ホ。も。の。旨。を。下。知。り。時。又。明。德。四。年。三。月。廿。五。日。を。田。樂。興。行。の。本。日。と。定。め。る。將。軍。公。満。公。千。の。比。及。一。室。町。花。の。所。を。出。り。て。斯。波。葉。竹。山。の。兩。管。領。四。職。頭。人。昵。近。の。武。士。殿。上。人。上。達。部。ろ。んと。駈。ね。河。原。の。棧。敷。に。入。り。多。を。洛。中。の。貴。賤。を。後。ま。と。と。入。り。て。二。百。八。十。九。間。の。棧。敷。は。凡。そ。主。べ。う。も。あ。り。去。程。は。楠。河。内。二。郎。正。元。と。去。年。の。冬。六。

怒り。らゝ狼藉あり。傳言どや貞和のむし。お軍さる氏公の河原まで。
田樂を賣せし。天狗山伏の怪異ありて。野の人を殺しつゝ。の故ふ官
領家の下知より。人々山伏を禁制と。仕のふりむと。許しを
内へ入るべし。蓋の屑を動かし。縛りし。罵るを正元と。笑ふ
を。掛棒を掛ひ。張はる。肉へ傷と入る。癖者ぞと。強だ立
く。背より面より。組曲んと。聞くを。物もせし。金剛杖と。うる。急て。
當り。隨ふ。打倒し。棧敷を。侍と。え。さ。西面は。高欄。紫の幔幕
より。西の紋著し。を。引。お軍。上坐。光御ありて。公卿武
士等。それを。圍繞し。その為。俣風流の。綺羅を。そ。と。ふ。ふ。
正元。それを。盲龜の。浮木。優曇華の。春。の。お。此。由
擬。及。揺。捨。衆。万人。群。集。上。の。上。を。飛。越。下。の。歌

棧敷の柱は手とけ。仰上るむろの高欄へ。つと。攀。登。る。その疾を。
樹傳。猿。は。異。る。登。り。も。果。と。声。と。あ。つ。つ。お。満。故。根。河。泉
三州の守。贈正三位。近衛中将。正成。の。孫。内。國。千。叙。破。の。城。主。
廷尉正勝。が。才。河。内。女。正。元。と。縁。り。や。累。代。君。父。の。怨。敵。外。外。と。
と。名。告。つ。太。刀。と。抜。翳。し。打。つ。萬。ま。ん。近。臣。吐。嗟。と。推。隔。し。組
伏。人。と。防。ぎ。弑。ひ。矢。庭。に。怒。り。の。八。九。人。は。な。る。その。隙。に。茂。満。云。ハ
斯。波。茂。將。紫。竹。山。基。國。ホ。と。お。く。降。棚。へ。移。り。も。ひ。が。か。て。室。町。の
山。所。へ。歸。り。あ。ひ。つ。緯。の。景。迹。つ。と。遠。く。と。え。え。い。それ。バ。今。ア。を。誦。ね。る
田。樂。法。師。ホ。ウ。魂。消。く。東。西。は。ま。り。孫。ま。お。と。堵。と。失。ひ。く。鼓。と。抱
笛。と。握。り。ち。る。あ。づ。腰。う。ち。ぬ。う。と。ま。お。顔。色。も。素。袍。の。袖。は。等
く。花。田。は。黄。黒。は。戎。は。青。く。戎。は。土。の。ど。ろ。り。伶。人。も。ま。り。お。ん。く

田樂の
棧敷は正元
血戦



見物の老弱男女々人崩打と慌忙。ひびくた婦幼。尼法師を
へ。滑仆れ。泣叫び。羊死。羊生る。の。ゆ。そ。な。く。そ。と。い。ふ。り。と。さ。る。
に。樂。場。悲。と。生。む。人。間。の。苦。樂。只。一。瞬。の。中。に。あ。り。目。も。あ。ら。ぬ。
分。野。さ。り。り。る。種。正。え。と。將。軍。矢。滿。云。を。撃。漏。ら。し。て。還。恨。
限。り。る。太。刀。の。刃。の。続。く。種。と。敵。手。を。擇。む。挑。む。戦。ふ。非。常。乃。衛。
護。と。し。て。召。か。れ。る。野。兵。百。人。陰。謀。を。犯。す。正。え。を。さ。り。圍。む。奮。
怒。突。戦。敵。刺。さ。る。ど。も。正。え。い。南。蛮。鐵。の。隙。帷。子。を。被。り。し。る。浅。
疾。ぶ。も。負。む。え。外。双。る。死。勇。士。さ。る。ふ。必。死。と。い。ひ。定。め。さ。れ。ば。さ。れ。
猛。虎。の。羊。と。驅。ぶ。其。の。降。は。當。る。り。の。あ。く。血。々。流。ま。る。豚。鹿。乃。
野。と。浸。し。屍。の。積。ぐ。思。ふ。く。さ。か。く。正。え。只。一。人。は。怒。惱。さ。れ。て。手。
負。死。人。数。十。人。は。な。る。び。く。長。き。春。の。日。も。暮。す。り。が。れ。強。敵。を。さ。り。
逃。さ。る。忌。々。し。い。人。大。事。さ。る。と。さ。る。紫。竹。山。基。國。討。手。の。大。お。を。

う。け。ぬ。り。う。ね。く。兵。士。と。倍。加。ら。し。稻。麻。竹。葦。ふ。さ。り。巻。る。葉。
火。挑。灯。を。見。星。は。吳。る。と。ど。と。正。え。と。さ。る。一。足。も。退。く。と。さ。る。
さ。る。い。の。猛。し。と。さ。る。も。の。身。跌。石。は。あ。ら。ざ。れ。ば。今。い。う。と。さ。る。い。絶。屋。
の。櫓。を。突。破。り。て。櫓。の。上。より。登。り。つ。天。を。仰。ぐ。長。嘆。し。後。主。降。く。
美。女。維。か。謀。成。ら。ど。嗚。呼。天。を。れ。を。喪。せ。り。天。を。を。喪。せ。り。夫。善。惡。
正。邪。因。果。應。報。の。係。り。野。一。旦。の。利。運。は。さ。る。と。近。速。り。久。く。曲。
ま。る。是。利。が。武。威。を。誇。る。も。衰。る。時。さ。る。人。や。さ。る。寄。り。討。む。の。
大。將。を。紫。竹。山。と。さ。る。い。僻。目。欽。正。え。が。死。首。取。く。功。名。話。説。え。と。
う。と。バ。腰。さ。る。さ。る。さ。る。と。さ。る。後。中。で。も。諸。り。続。ぐ。汝。亦。が。運。竭。
る。と。死。の。手。奉。ま。せ。よ。と。叫。び。く。り。肚。甲。の。上。帶。切。く。捨。血。刀。を。



さうする所へ。左の肚へぞと突立ちて、引繞らんとて、つゝも腸を廻し出し、あまのうへに投著く。立ち上り死しむる。その勇敵は恐怖し、さきか近づく所の由なり。居いざと云ふ。うち膳を居よりしが、兵士四五人、屋棟に登りて、さづ陰の降頭をりて、突動し、さき倒れど。さき死するをえ究め、遂に首をと取り、さき次の日正元的首級を、日岡の山蔭へ梟たれり。是をさきりの堵のむ。朝の豫讓あり。田横が美を煮たり。この忠孝勇猛を唱嘆せざるはあらじ。このりとも近國小川にさきりし。浪速なる山迹家丹五兵衛。その妻阿也女と。丹五兵衛は驚き悲しむ。さきやうに歎きしが、丹五兵衛がひかり。足利の武運高大なり。正元遂に復讐の本意を遂ぬべし。最期の形容をさき方も遺恨なきと推量られて。さういふげやありねど。さき歎くさきひるる。これさきかん首級を馬の蹄よりけりせん。へりと打を。それ直に路へ走せし。夜は紛れ盗み。さき寺院へ葬りてある。忙しく行装し、従者を俱せ、只一人十三里の道程を直走り。その日の暁、香小京へぞ著ぬ。甲夜の間に往來の迹絶せ。守る人も油断せず。と深念し。小夜の深るをす。春の夜なれば短く。さき人定由過し。頃一廿六日の善惡もあり。周と夜をさきく。溜びられ。番卒ホム。焼捨する無火の母さき睡眠あり。丹五兵衛もさき入る。時分あり。と足を曉からとり。正元の首級を盗み。袖に楚とり抱き。走り去るとさき。

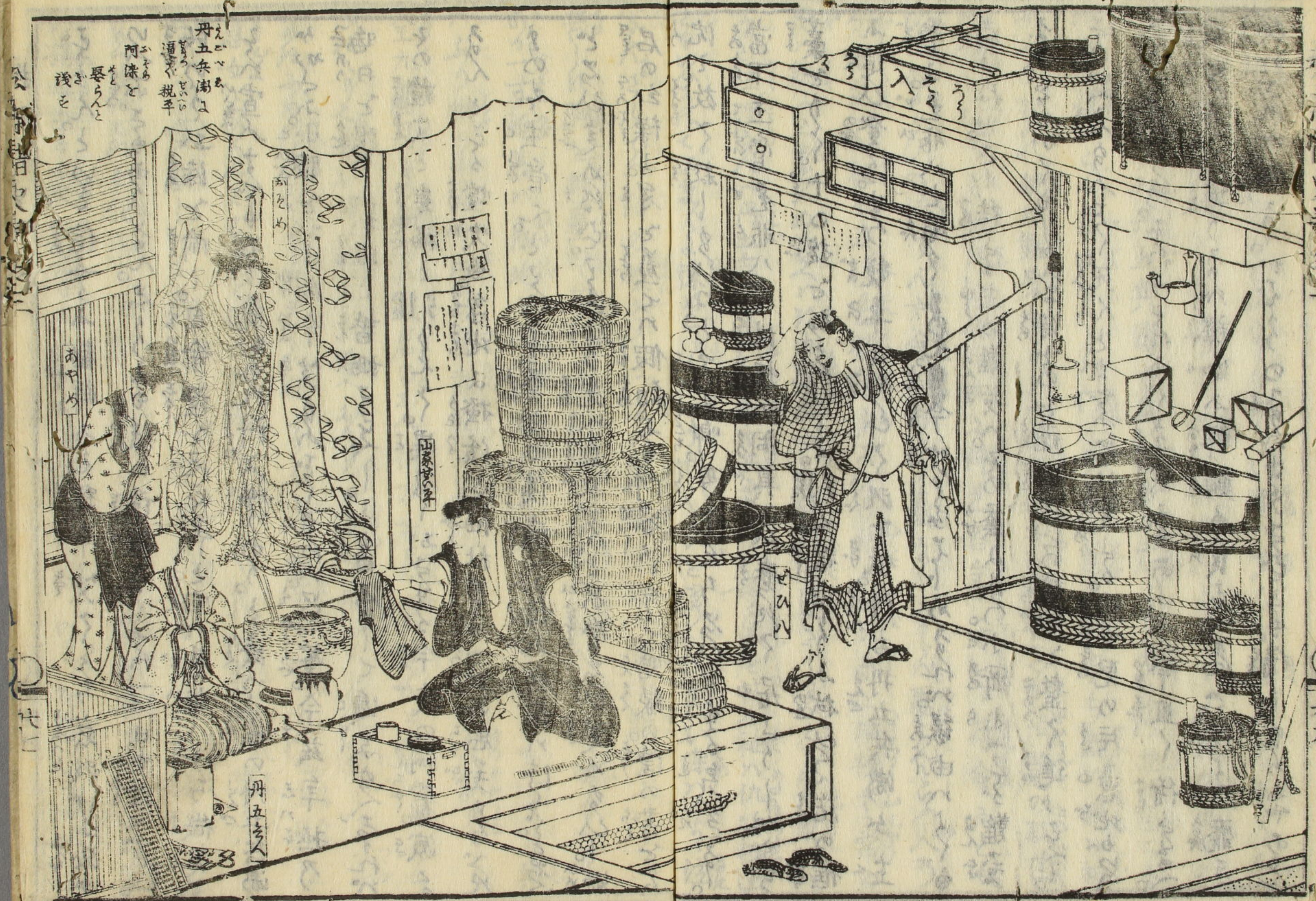
足音を驚かす。十人の野伏の番卒。うろたふ。刃を握
痺者あり。と罵りつ。岸破と起。膝く。手み。器械を引。提
ぐ。群を来。うろ。丹五兵衛と。うろ。挫人と。聞くふ。丹五兵
衛。外。も。脱。さ。と。ひ。く。正えの首級を。藁の中。一
投。入。競。ひ。く。番卒。ホ。右。柱。左。は。靡。け。縦横。手。防
に。戦。ひ。う。う。刺。抜。は。桂。の。袂。を。巻。あ。ま。是。隻。袖。う。う。と
断。離。う。丹五兵衛。既。は。織。の。袖。を。う。う。後。難。脱。と。う。と
あ。バ。命。を。惜。む。突。然。頻。は。袖。を。う。復。え。う。う。焦
燥。も。六。の。臂。も。あ。う。う。う。編。笠。深。く。う。う。於
武士。忽。ち。と。う。う。刀。の。鞘。は。手。を。か。う。と。ん。え。件。の。袖。を
う。取。う。番。卒。を。う。う。と。破。う。う。袖。を。奪。ひ。う。

藁の中。う。う。正えの首級を。う。う。と。番。卒。ホ。五。六。人
引。う。う。面。も。う。う。彼。武士。ハ。已。と。う。う。受。挂。て。い。と
烈。く。を。残。ひ。う。浩。如。う。石。の。地。の。背。う。年。齡。六。十。は。近。頃
礼。の。後。行。者。群。の。う。を。窺。う。う。と。出。う。正えの首級を
う。抱。う。後。方。も。う。う。去。ま。一。人。の。番。卒。を。追。ひ。う。
中。う。う。組。留。る。襟。上。廻。う。う。返。う。後。う。小。控。と。投。退。け。
う。不。信。う。脱。失。う。番。卒。ホ。う。款。は。加。勢。あ。う。首。級。を。奪。ひ
去。う。と。ひ。う。頻。は。法。螺。を。吹。鳴。う。事。の。急。と。告。う。丹五
兵衛。ハ。遂。小。志。と。果。う。う。擲。捕。う。う。う。の。も。杖。う。
憑。も。う。姫。君。う。う。う。と。ひ。う。つ。志。う。う。惜。う。う。
も。う。惜。う。一。條。の。道。を。う。と。め。う。且。残。ひ。且。去。ま。件。の。武士。



正元の
首級を
奪んて
丹五兵衛
夏袖と
失ふ





丹五兵衛
通税
阿茶
浅

あやめ

山家

丹五兵衛

入

